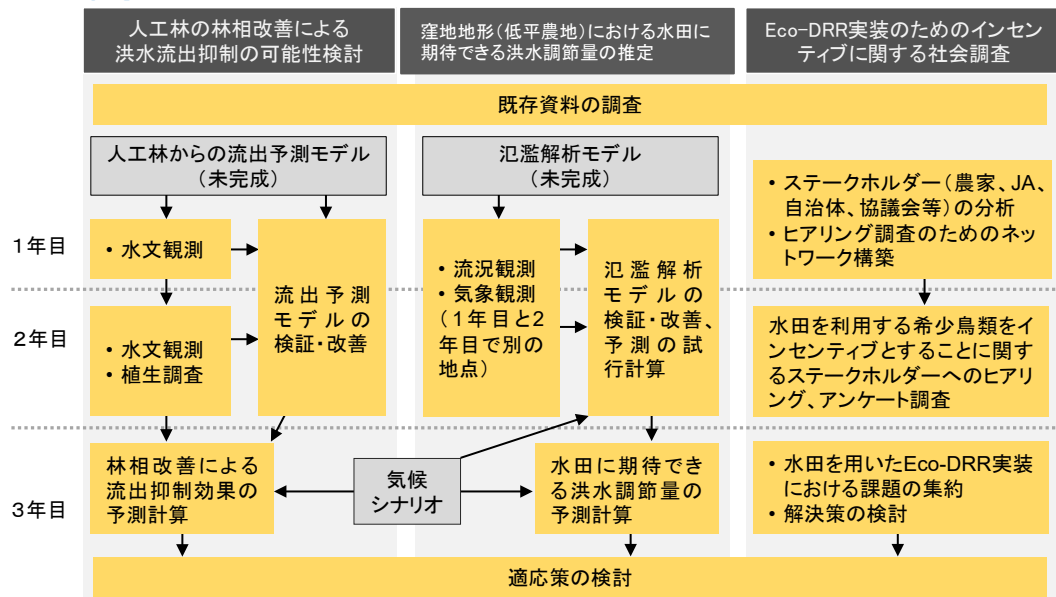


【計画】5-5 生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)適応策の検討

■ 目的

- 気候変動に伴う洪水リスクの増大が懸念される中、生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)への関心が高まりつつある。
- 本調査では、将来の極端豪雨に対する、“人工林からのピーク流出量低減効果“および”窪地地形(低平農地)の湛水量”に関する評価を行った。
- また、防災・減災機能を有する窪地地形内の水田の保全のための方策として、水田の維持方策について検討を行った。

■ 調査計画



■ 実施体制

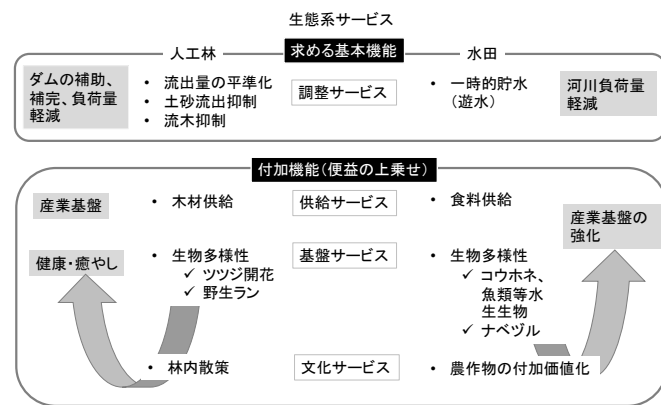
(株)地域計画建築研究所
(アルパック)

徳島大学
環境防災研究センター

- Eco-DRR実装に関する社会調査
- 各種補助、とりまとめ

- 人工林の林相改善による流出抑制効果の予測
- 水田に期待できる貯水量の推定、内水氾濫への対応可能性検討
- Eco-DRR実装のためのインセンティブ検討

気候変動に伴う豪雨出水適応としてのEco-DRR 基本的考え方



(徳島大学作成)

※林相改善: 森林の多面的機能を高めるため、森林を構成する樹木の構成を改良すること